

TOTTORI KETAKA AOYA
鳥取県気高郡青谷町

青谷町内遺跡発掘調査報告書 V

KURA UTI KAMINAGATANI

蔵内上長谷第1・第4所在遺跡

KA YA MA FUJI TA

カヤマ遺跡（藤田地区）試掘調査報告書

1996. 3

鳥取県気高郡

青谷町教育委員会

序 文

この報告書は、開発事業に伴い、国庫補助及び県補助を受けて、平成7年度に実施した青谷町内遺跡の試掘調査記録であります。

青谷町は、自然環境にも恵まれ、東西の丘陵に挟まれた地域には、多くの有形・無形の文化遺産も残されています。

近年は、社会の進展に伴って各種開発事業が計画・実施され、さらに増加する傾向にあります。文化財保護を推し進めている私共といたしましては、こうした開発と文化財の共存をはかるべく諸関係機関と協議を重ね、円滑に文化財行政を進めているところです。

この調査に当っては、鳥取県教育委員会文化課、鳥取県埋蔵文化財センターをはじめ関係各位の格別なご指導・ご協力を仰ぎながら、土地所有者や調査員、作業員の方々の熱意によりやく調査を終えることができました。ここに深く感謝を申し上げる次第であります。

なお、この報告書は不十分な所も多くありますが、私たちの郷土理解に役立っていただくとともに、今後の調査研究の一助となれば幸いです。

平成8年3月

青谷町教育委員会

教育長 山 田 正 信

例 言

1. 本報告書は、平成7年度国庫補助及び県補助を受けて青谷町教育委員会が実施した青谷町内遺跡発掘調査の記録である。
2. 本発掘調査事業は、五本松地区ふるさと農道新設工事に伴う蔵内上長谷第1・第4所在遺跡、緊急地方道路（蔵内本線）整備事業に伴うカヤマ遺跡（藤田地区）の範囲と性格を確認し、工事との調整を図るために行った試掘調査である。
3. 発掘調査及び報告書作成にあたっては、鳥取県教育委員会事務局文化課、鳥取県埋蔵文化財センターの指導と協力を得た。
4. 本書の作成は、調査員の坂根・森が協議しながら、執筆・編集を行った。
5. 本書に使用した方位は磁北で、実測図の縮尺は原則として遺構1/80、遺物1/3で示し、土色及び土器類等色調を表すには農林水産技術会議事務局監修「標準土色帳」によった。地図は、国土地理院の承認を得て作成された「青谷町全図」の5万分の1の地図を使用した。
6. 本書における遺構、遺物等の略号は次のように示す。
T：トレンチ P○：土器
7. 発掘調査で得られた日誌・図面・写真・遺物等は、青谷町教育委員会で保管する。

調査関係者

調査主体	青谷町教育委員会
調査団長	山田 正信（青谷町教育委員会教育長）
調査員	坂根 善男（青谷町文化財保護審議会会長） 森 佳樹（青谷町教育委員会事務局生涯学習課社会教育主事）
事務局	久野浩太郎、山根 敬一、森 佳樹、金崎 厚志 （以上青谷町教育委員会事務局生涯学習課）
調査指導	鳥取県教育委員会事務局文化課 鳥取県埋蔵文化財センター
作業協力	岡田美津枝、岡村百合子、久野又蔵、久野美保子、蔵光照代、滝 保子、 竹森きよ子、船越千代野、山下智恵子、山根静香、伊藤節子、小林早苗

本文目次

第1章 調査に至る経過	1
第2章 遺跡の位置と環境	1
第3章 調査の概要	5
第1節 蔵内上長谷第1・第4所在遺跡	5
(1) 調査の方法	5
(2) トレンチの概要	5
第2節 カヤマ遺跡（藤田地区）	9
(1) 調査の方法	9
(2) トレンチの概要	10
第4章 ま と め	12

挿 図 目 次

挿図1 青谷町の主な遺跡分布図	3
挿図2 蔵内上長谷第1～第4所在遺跡位置図	4
挿図3 蔵内上長谷第1・第4所在遺跡	
第1トレンチ平面図及び土層図	6
挿図4 蔵内上長谷第1・第4所在遺跡	
第3トレンチ平面図及び土層図	6
挿図5 蔵内上長谷第1・第4所在遺跡試掘トレンチ配置図	7
挿図6 カヤマ遺跡（藤田地区）試掘トレンチ配置図	9
挿図7 カヤマ遺跡（藤田地区）第1トレンチ平面図及び土層図	10
挿図8 カヤマ遺跡（藤田地区）第2トレンチ平面図及び土層図	11
挿図9 蔵内上長谷第1・第4所在遺跡出土遺物実測図	13
挿図10 カヤマ遺跡（藤田地区）出土遺物実測図1	13
挿図11 カヤマ遺跡（藤田地区）出土遺物実測図2	14

表 目 次

表 1	蔵内上長谷第 1・第 4 所在遺跡試掘トレンチ一覧表	5
表 2	カヤマ遺跡（藤田地区）試掘トレンチ一覧表	9
表 3	蔵内上長谷第 1・第 4 所在遺跡出土遺物観察表	15
表 4	カヤマ遺跡（藤田地区）出土遺物観察表 1	15
表 5	カヤマ遺跡（藤田地区）出土遺物観察表 2	16

図 版 目 次

図版 1	蔵内上長谷第 1・第 4 所在遺跡全景 トレンチ完掘状況（T 1・3）	17
図版 2	カヤマ遺跡（藤田地区）全景 トレンチ完掘状況（T 1・2）	18
図版 3	蔵内上長谷第 1・第 4 所在遺跡出土遺物	19
図版 4	カヤマ遺跡（藤田地区）出土遺物 1	19
図版 5	カヤマ遺跡（藤田地区）出土遺物 2	20

第1章 調査に至る経過

(1) 蔵内上長谷第1・第4所在遺跡

1995年10月に鳥取地方農林振興局地域整備課から、五本松地区ふるさと農道新設工事の計画がもたらされた。

この地域は、1994年度に行われた町内遺跡分布詳細調査により土器片を表採し、遺跡の存在が確認された。

このため、鳥取地方農林振興局地域整備課及び町農林水産課、県教育委員会文化課、青谷町教育委員会等で協議を重ね、試掘調査を行うこととなった。調査期間は、1995年11月30日から12月14日である。

(2) カヤマ遺跡（藤田地区）

1993年10月に青谷町建設課から、緊急地方道路（蔵内本線）整備事業の計画がもたらされた。

この地域は、弥生土器片等が多数散布し、以前に発掘調査が行われたカヤマ遺跡、大口第3遺跡が近くに存在し、さらに昨年度現道路の南側を試掘調査し、遺跡の存在する可能性が高いと考えられた。

このため、青谷町建設課及び県教育委員会文化課、町教育委員会等で協議を重ね、試掘調査を行うこととなった。調査期間は、1996年2月26日から2月29日である。

第2章 遺跡の位置と環境

青谷町は、鳥取県の中央よりやや東に位置し、東部地域の西端、旧国名でいえば因幡国に属し、伯耆国との国境にある。北は日本海に面し、東は気高町、西は泊村・東郷町、南は鹿野町・三朝町に隣接し、東西約7.7km、南北約13kmと南北に長く、面積約68.3kmの町である⁽¹⁾。

町の南域は標高500mを越す山地で、そこから北へ伸びる溶岩台地が町の東西を取り囲み町界をなしている。溶岩台地の北端は長尾鼻、オゴノ鼻と続き、30mをこえる断崖となって日本海に突出している。また、町の中央を南北に伸びる溶岩台地の東を日置川、西を勝部川が流下し、河口近くで合流し日本海に注いでいる。合流地点付近に沖積平野、海岸部に砂丘が形成されている。町内の砂浜は、全国的にも珍しい鳴り砂の浜として知られている⁽¹⁾。

町内の遺跡は、確認されているものだけでも約400カ所あり、その大半は古墳である。

今回調査した蔵内上長谷第1・第4所在遺跡(A・B)は、青谷町の東側の南北に伸びる台地上の北西方向に流れる小さな谷部にあたり、この谷部の西側の丘陵上には縄文前期の土器片が散布する第2所在遺跡(1)が、第4所在遺跡の西側の小さな尾根の西向き斜面には土師器が表採された第3所在遺跡(2)が存在する。

カヤマ遺跡(藤田地区)(C)は、青谷町の中央の南北に伸びる台地の東側山裾部に位置し、日置川によって形成された沖積平野の南端西方部にあたる。藤田地区の南約200mには、カヤマ遺跡(16)が存在し、1981年に試掘調査及び全面発掘調査が実施され、弥生時代後期から奈良時代にかけての住居跡や古墳などが検出されている⁽²⁾。また、今回の調査地の南に隣接したカヤマ遺跡(藤田地区)では1994年に試掘調査が実施され、遺構は検出されなかったものの多数の土器片が出土している⁽³⁾。さらに西北西約150mには、大口第3遺跡(20)が存在する。この大口第3遺跡は、大口古墳群(17)の範囲内にあり、尾根続きの丘陵上には大口第1遺跡(18)、大口第2遺跡(19)が存在する。大口第1・2・3遺跡では、1984年・1988年・1994年に発掘調査が行われ、弥生時代後期から古墳時代にかけての土壇墓や多数の貯蔵穴、竪穴住居跡、墳墓などが検出されている^(4~9)。この周辺では、さらに南に早牛遺跡(14)、早牛古墳群(15)、北西には大坪古墳群(21)が存在し、弥生時代後期から古墳時代、奈良時代以降へつながる遺跡の集中地帯で、時代ごとの遺跡の相互関係を検討できる貴重な地域である。

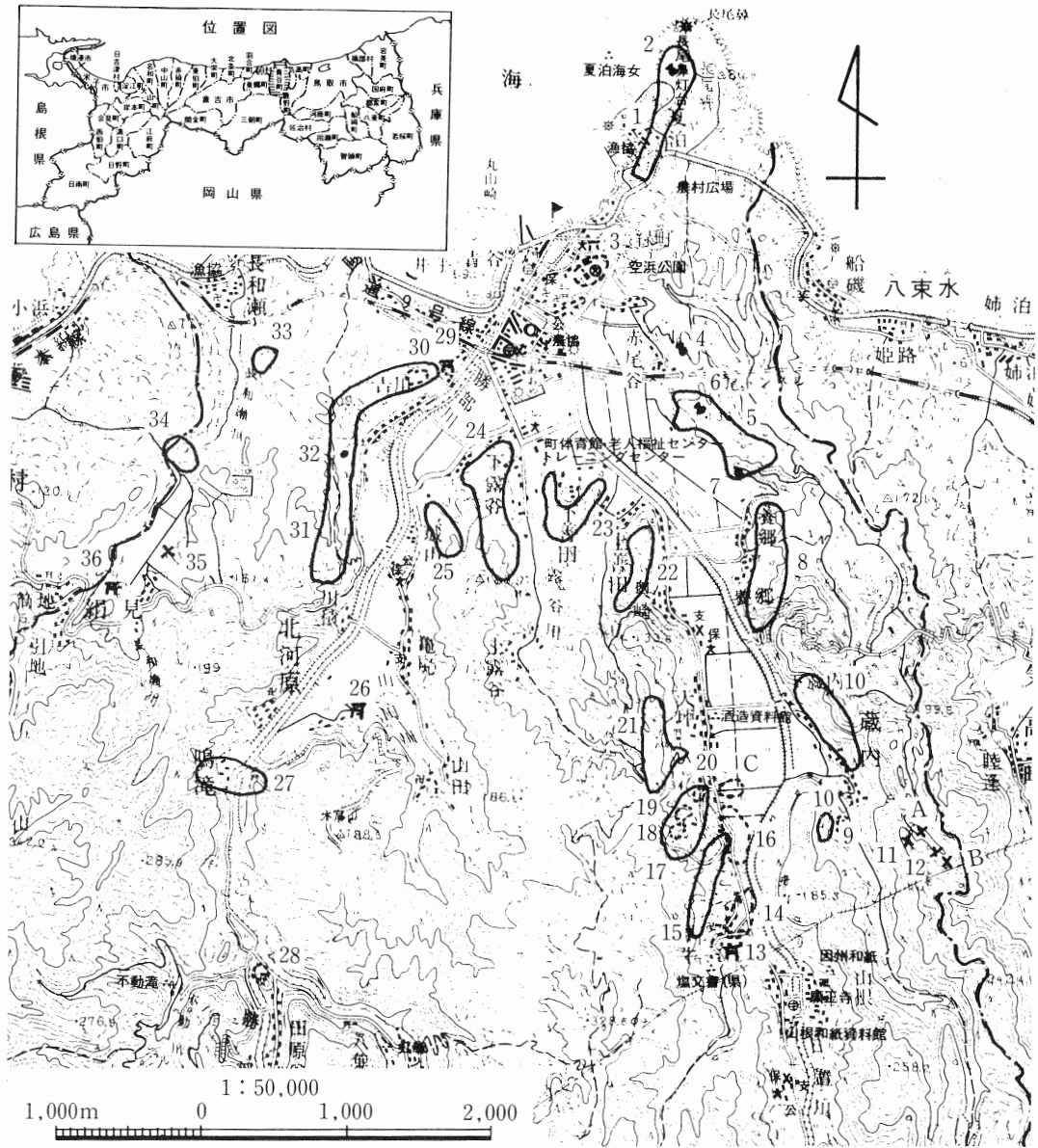
その他の青谷町内の主な遺跡は、次のとおりである。

旧石器時代の遺跡は、今のところ確認されていない。縄文時代の遺跡としては、砂丘地にある鳥取県立青谷高等学校の井戸掘り作業中偶然に発見された青谷第1遺跡(3)がある。ここでは縄文時代中期から弥生時代、古墳時代にかけての土器片が出土している⁽¹⁰⁾。このほか縄文時代の遺跡としては、絹見部落周辺の石皿や石斧の出土地(35)⁽¹⁰⁾、前述の蔵内上長谷第2所在遺跡がある。

弥生時代の遺跡は、前述のカヤマ遺跡、大口第1・2・3遺跡、早牛遺跡、1991年に発掘調査が行われた蔵内水船遺跡(9)⁽¹¹⁾、相屋神社(29)近くの青谷第4遺跡(30)⁽¹²⁾(ほぼ完形の壺を出土)、1994年に発掘調査が行われた田原谷宮下所在遺跡(28)⁽³⁾、前述の青谷第1遺跡、絹見部落周辺の土器・石斧出土地、北河原での挟入石斧出土地などがある。

古墳時代には、町の中央と東西の丘陵やその山裾に多数の古墳が造営された。今のところ古墳や集落・散布地などの分布は、海岸から6km以内に限られている。町内の古墳は、ほとんどが直径10~20mの円墳と思われ、海岸部に向けて伸びる3つの丘陵台地上ないしは山裾に存在する。

東側の台地・丘陵上には、北側から町内最大の前方後円墳長尾鼻1号墳(2)(長さ34m)



- | | | |
|----------------|-----------------|-----------------|
| A. 蔵内上長谷第1所在遺跡 | B. 同第4所在遺跡 | C. カヤマ遺跡 (藤田地区) |
| 1. 長尾鼻古墳群 | 2. 長尾鼻1号墳 | 3. 青谷第1遺跡 |
| 4. 東山古墳 | 5. 阿古山古墳群 | 6. 阿古山2号墳 |
| 7. 阿古山22号墳 | 8. 養郷古墳群 | 9. 蔵内水船遺跡 |
| 10. 蔵内古墳群 | 11. 蔵内上長谷第2所在遺跡 | 12. 同第3所在遺跡 |
| 13. 利川神社 | 14. 早牛遺跡 | 15. 早牛古墳群 |
| 16. カヤマ遺跡 | 17. 大口古墳群 | 18. 大口第1遺跡 |
| 19. 大口第2遺跡 | 20. 大口第3遺跡 | 21. 大坪古墳群 |
| 22. 奥崎古墳群 | 23. 善田古墳群 | 24. 露谷古墳群 |
| 25. 亀尻古墳群 | 26. 神前神社 | 27. 鳴滝古墳群 |
| 28. 田原谷宮下所在遺跡 | 29. 相屋神社 | 30. 青谷第4遺跡 |
| 31. 吉川古墳群 | 32. 吉川43号墳 | 33. 長谷古墳群 |
| 34. 釜ノ口古墳群 | 35. 石皿出土地 | 36. 幡井神社 |

挿図1 青谷町の主な遺跡分布図

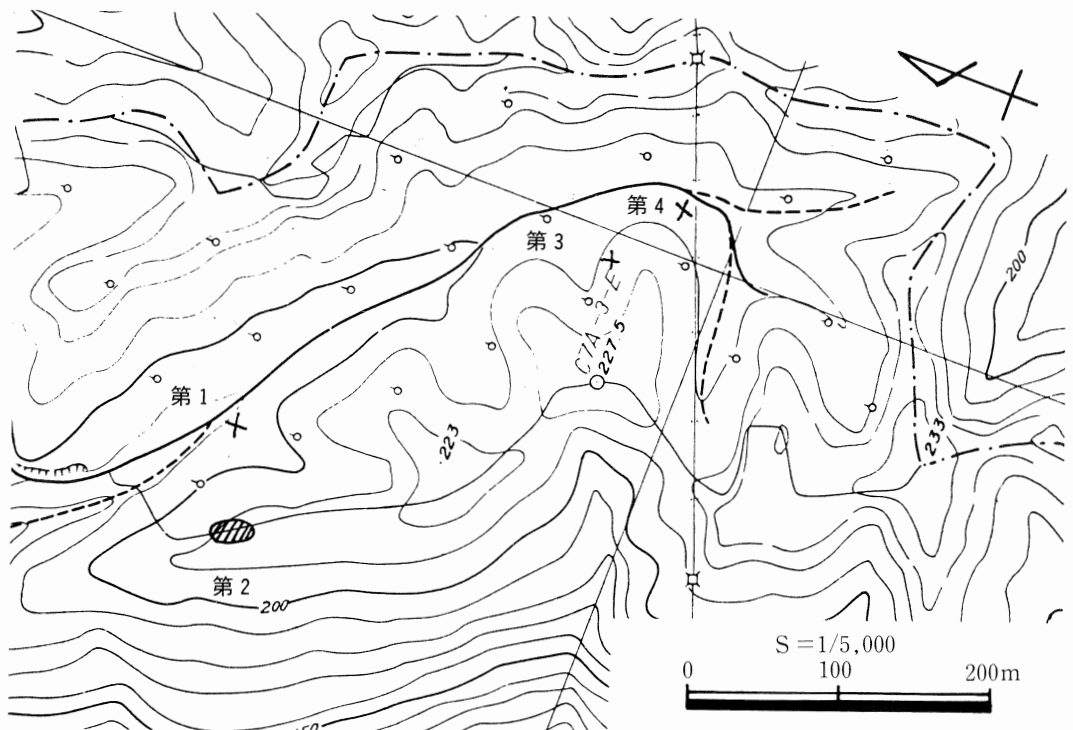
を有する長尾鼻古墳群(1)、町内第2の前方後円墳 東山古墳(4) (青谷2号墳、全長28m)、前方後円墳である阿古山2号墳(6) (全長23.5m) と船や星などの線刻壁画がほどこされ県史跡に指定されている阿古山22⁽¹³⁾号墳(7) (全長6.1m, 奥壁幅2.5m, 高さ3.0m) を有する阿古山古墳群(5)、養郷古墳群(8)、さらに1988年に発掘調査された3基の古墳を有する蔵内古墳群(10)⁽¹⁴⁾と続く。

次に中央の丘陵には、北から露谷古墳群(24)、その西に亀尻古墳群(25)、東に善田古墳群(23)があり、さらに南東には町の史跡指定されている奥崎古墳群(22)、大坪古墳群、人口古墳群、早牛古墳群が連なっている。

最後に西側の丘陵上には、相屋神社から南方の丘陵上に約90基の古墳が連なり船の線刻壁画がほどこされた吉川43号墳(32)を有する吉川古墳群(31)、その西側の丘陵上には1988年に発掘調査された4基の古墳を有する長谷古墳群(33)⁽¹⁵⁾、釜ノ口古墳群(34)と続いている。

奈良時代の遺跡としては、カヤマ遺跡があるのみで、遺物の発見も少ない。

歴史上の資料としては、因幡国の官道に置かれた4カ所の駅のうちの「柏尾駅」の有力な候補地と言われる相屋神社周辺や、勝部・日置といった部民制度に由来するといわれる郷名が残っている⁽¹⁶⁾。また、やや時代は下るが、町内の式内社である利川神社(13)と幡井神社(36)がそれぞれ早牛・絹見に、式外社である相屋神社と神前神社(26)がそれぞれ青谷・鳴滝にあることは、遺跡との関わりが考えられる。



挿図2 蔵内上長谷第1～第4所在遺跡位置図

第3章 調査の概要

第1節 蔵内上長谷第1・第4所在遺跡

(1) 調査の方法

この試掘調査は、五本松地区ふるさと農道新設工事に伴って工事予定区域内において実施した。

この地域は、青谷町の東側の南北に伸びる台地上から北

トレンチ番号	トレンチの規模 (m)	遺構	遺物
T1	1.5×5.0	なし	土師器・須恵器片
T2	2.0×6.0	なし	なし
T3	1.9×5.4	なし	縄文土器・土師器片

表1 蔵内上長谷第1・第4遺跡試掘トレンチ一覧表

西方向に流れる小さな谷部にあたり、土器片が表採された。またこの谷部の西側の丘陵上には縄文時代前期の土器片が散布する蔵内上長谷第2所在遺跡が、さらに第4所在遺跡の西側尾根の西向き斜面には土師器片が表採された第3所在遺跡が存在し、この地域内において遺跡の存在する可能性が濃厚であった。

このため、遺跡の存在する範囲と性格を確認するため、トレンチによって調査した。

トレンチは、工事区域内において、2.0×5.0mを基準として3カ所(29.76m²)設定し、順次掘り下げた。

(2) トレンチの概要

第1トレンチ

このトレンチは、工事予定区域内の北西部付近に1.5×5.0mの規模で設定し、掘り下げた。

このトレンチは、約110cm掘り下げ、第5層の旧谷部堆積土層に達した。第4層は、通称「クロボク」と呼ばれる火山灰層であり、その上に第3層・第1層と二度にわたって客土が行われ、耕作が行われていた。

このトレンチでは、遺構は検出できなかった。

遺物は、第3層で土師器及び須恵器の小片が各1点ずつ出土したが、実測できるものはなかった。

第2トレンチ

このトレンチは、工事予定区域内の中央付近に2.0×6.0mの規模で設定し、掘り下げた。

このトレンチでは、現在の耕作土下約60～80cmで、地山である第2層橙色土に達した。

この地では山芋の栽培が行われ、第1層耕作土中には地山の橙色土のブロックがかなり混入していた。

このトレンチでは、遺構及び遺物は検出できなかった。

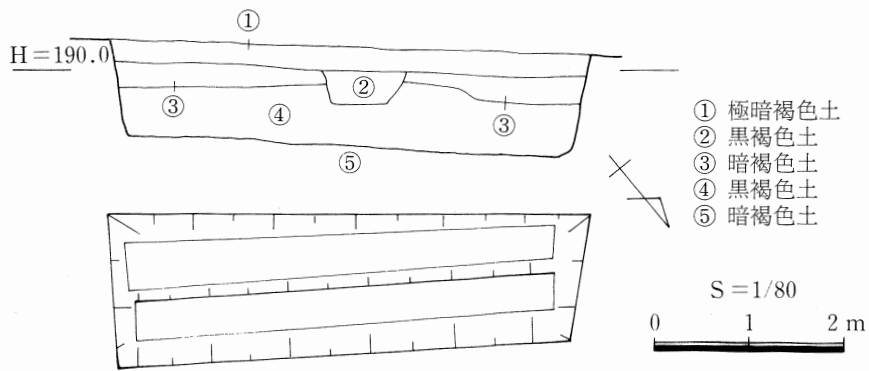
第3トレンチ

このトレンチは、工事予定区域内の南東付近に1.9×5.4mの規模で設定し、掘り下げた。

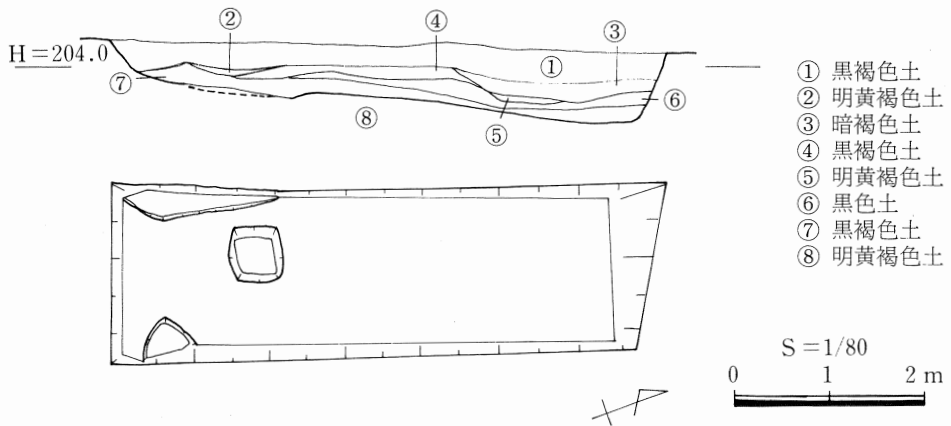
このトレンチでは、約40~70cmで地山である明黄褐色土に達した。この地は谷部中央にあたり、数度の土砂の堆積が見られた。

このトレンチでは、遺構は検出できなかった。

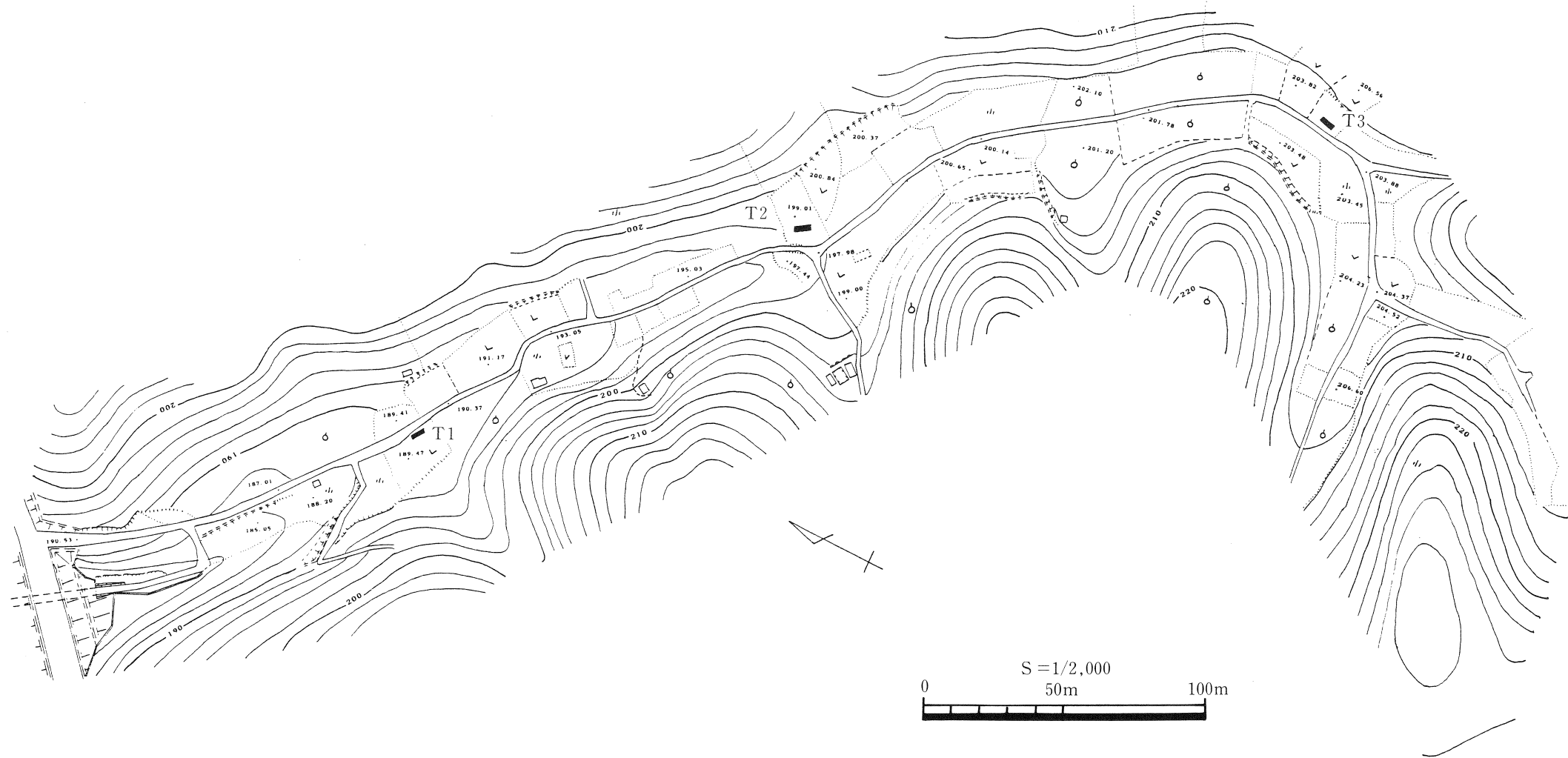
遺物は、第3層及び第7層で土器小片が出土したが、上部からの転落によるものと考えられる。図化できたのは縄文土器片 (Po01・02・03) 及び土師器片 (Po04) のみである。



挿図3 蔵内上長谷第1・第4所在遺跡第1トレンチ平面図及び土層図



挿図4 蔵内上長谷第1・第4所在遺跡第3トレンチ平面図及び土層図



挿図5 蔵内上長谷第1・第4所在遺跡試掘トレンチ配置図

第2節 カヤマ遺跡（藤田地区）

(1) 調査の方法

この試掘調査は、緊急地方道路（蔵内本線）整備事業に伴って工事予定区域内において実施した。

この地域は、青谷町の中央の南北に伸びる台地の東側山裾部に位置し、多数の土器片の散布が確認されている。

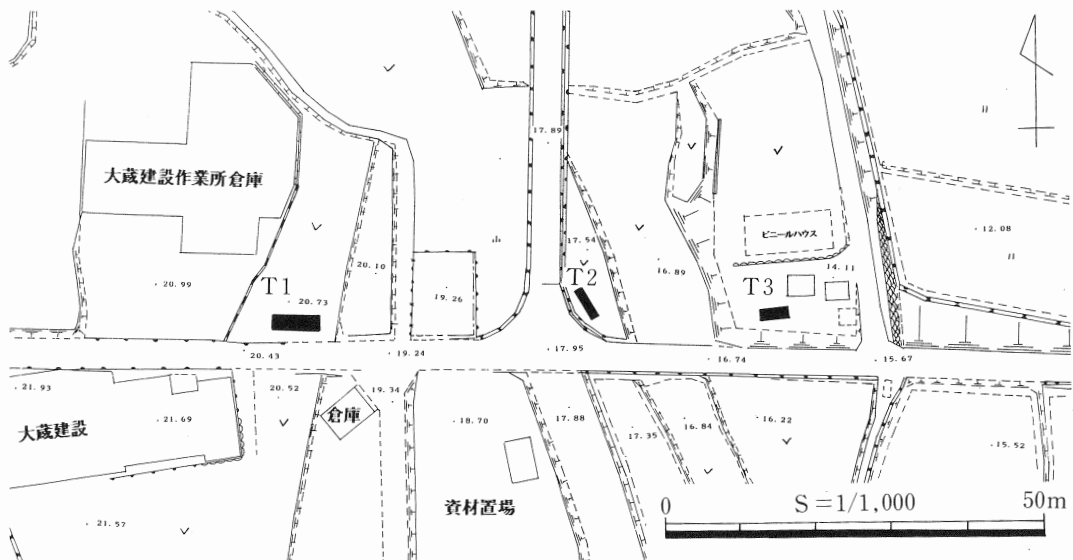
トレンチ番号	トレンチの規模 (m)	遺構	遺物
T1	1.9×6.0	なし	弥生土器・土師器 ・須恵器片
T2	1.2×4.0	なし	弥生土器・土師器 ・須恵器片
T3	1.4×4.0	なし	弥生土器・土師器片

表2 カヤマ遺跡（藤田地区）試掘トレンチ一覧表

また藤田地区の南約200mには1981年に発掘調査され弥生時代後期から奈良時代にかけての住居跡や古墳などが検出されたカヤマ遺跡が、西北西約150mには1994年に発掘調査され弥生時代後期から古墳時代にかけての住居跡や土壌などが検出された大口第3遺跡が存在し、この地域内において遺跡の存在する可能性が濃厚であった。さらに、昨年度現道路の南側を試掘調査し、遺構は検出できなかったものの、多数の弥生土器、土師器、須恵器片が出土している。

このため、遺跡の存在する範囲と性格を確認するため、トレンチによって調査した。

トレンチは、工事区域内において、野菜栽培地等の障害物を避けながら、2.0×6.0mまたは1.5×4.0mを基準として3カ所（21.80m²）設定し、順次掘り下げた。



挿図6 カヤマ遺跡（藤田地区）試掘トレンチ配置図

(2) トレンチの概要

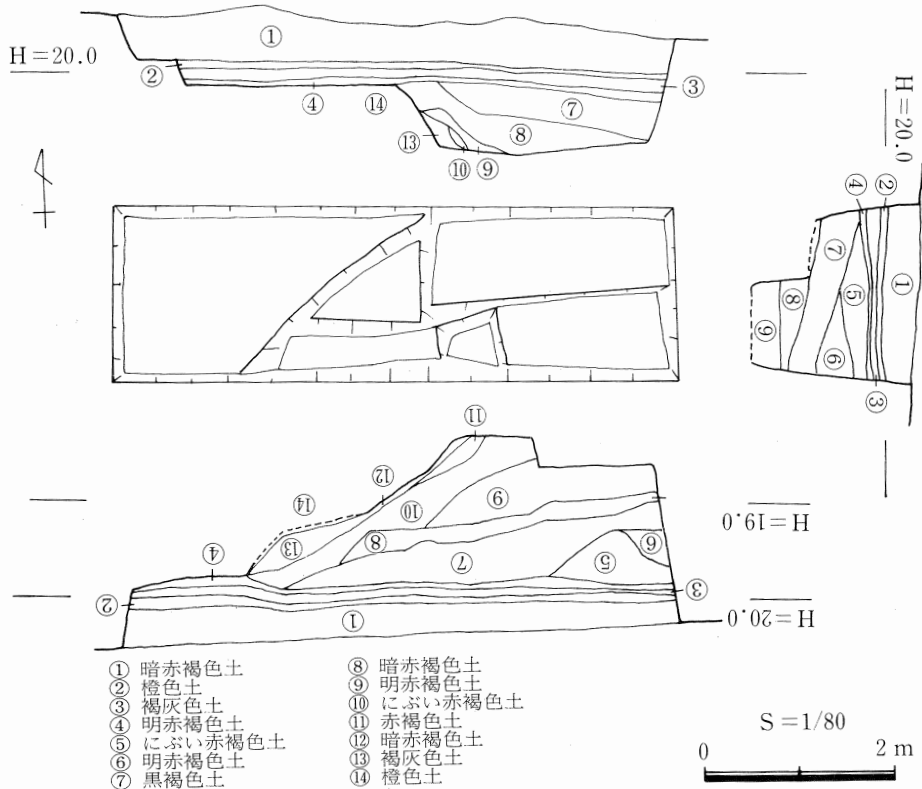
第1トレンチ

このトレンチは、工事予定区域内の西側付近に1.9×6.0mの規模で設定し、掘り下げた。

このトレンチでは、第1層～第4層まで約50～70cm掘り下げ、西側で地山である第14層橙色土（真砂土）に達した。東側では旧耕作時の客土である第7・8層に達し、第9層の河原石・川砂の堆積土層を確認した後南側にサブトレンチを設定し、さらに掘り下げた。第11層再度河原石の堆積層に達し、地山は東側に向かって傾斜し、数度の上砂の堆積が確認できた。

このトレンチでは、遺構は検出できなかった。

遺物は、第7・8層で時代差のある土器小片が約70点出土したが、実測できたのはわずかに土師器甕（Po01）・坏（Po02・03）・小皿（Po04～06）の6個体のみである。



挿図7 カヤマ遺跡（藤田地区）第1トレンチ平面図及び土層図

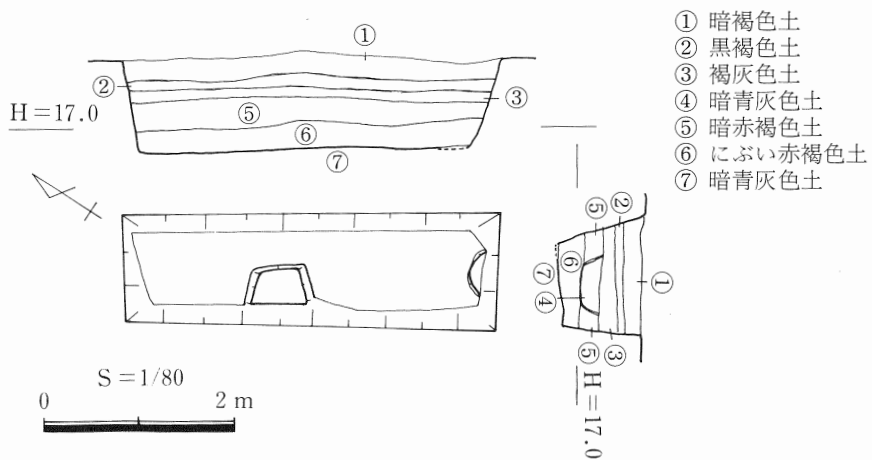
第2トレンチ

このトレンチは、工事予定区域内の中央付近に1.2×4.0mの規模で設定し、掘り下げた。

このトレンチでは、現在の耕作土下で、旧耕作土であると思われる第2・3層に達した。さらに、河原石・川砂の堆積する第5・6層を掘り下げ、河川または沼であったと思われる第7層暗青灰色土を確認した。第4層は、鍋または桶状の物が埋まっていたものと思われるが、腐食が著しく確認できなかった。

このトレンチでは、遺構は検出できなかった。

遺物は、第1～3層及び第5層上部で土器小片が約190点出土しているが、実測できたのはわずか弥生土器甕 (Po07)、土師器甕 (Po08)・高坏 (Po09・10)・低脚坏 (Po11)・器台 (Po12)・坏 (Po13)、須恵器甕 (Po14・15) の9個体のみである。



挿図8 カヤマ遺跡 (藤田地区) 第2トレンチ平面図及び土層図

第3トレンチ

このトレンチは、工事予定区域内の東側に1.4×4.0mの規模で設定し、掘り下げた。

このトレンチでは、耕作土を約40～50cm掘り下げ、第3層橙色土 (真砂土) に達した。この地は、町道建設時に削平されていると地元民から聞かされた。

このトレンチでは、遺構は検出できなかった。

遺物は、耕作土で土師器小片が出土したが、図化できるものはなかった。

第4章 まとめ

(1) 蔵内上長谷第1・第4所在遺跡

今回行った試掘調査においては、遺構は検出されなかった。

しかしながら、この地域周辺には縄文土器及び古墳時代の土器が出土し、さらにこの谷部の北側南向き斜面には横穴式石室が露出していたという話からも、この周辺には遺跡の存在する可能性も残っていると考えられる。

このため、今後の開発事業等計画時には再度の確認調査が必要であると考ええる。

(2) カヤマ遺跡（藤田地区）

今回試掘調査を行った範囲については、第1トレンチ西側で地山である真砂土層が確認されただけで、遺構は検出できなかったが、耕作時による客土中で多数の弥生土器、土師器、須恵器の破片が出土している。また、第2・第3トレンチは標高約17m以下で、昨年度の試掘調査と同様に、河原石・川砂の堆積が見られ、標高約17m以下の区域における遺跡存在の可能性は少ないと考えられた。

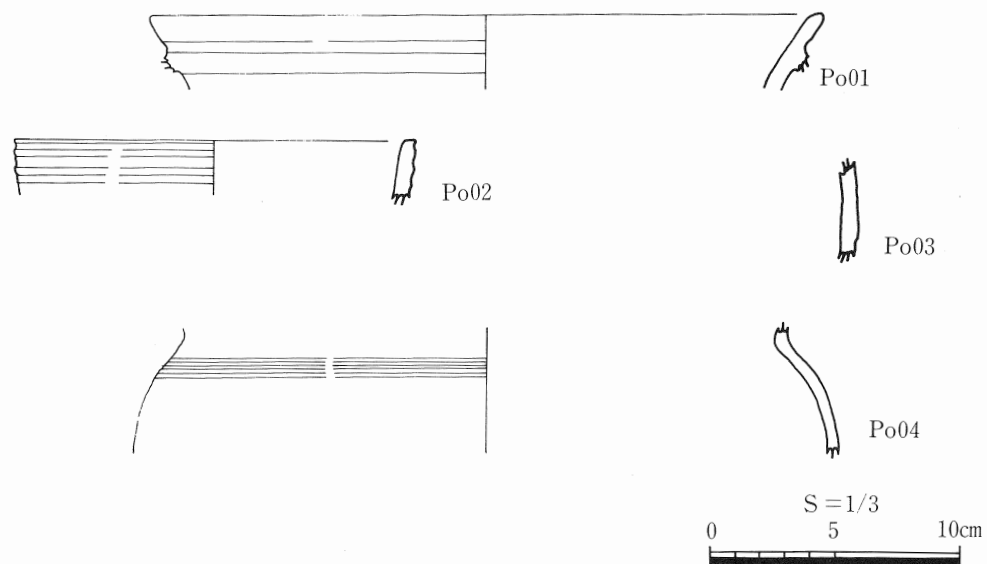
しかしながら、南にカヤマ遺跡、西に大口第1～第3遺跡が存在すること、さらに藤田地区の北側でも土器の散布が見られることから、この周辺には弥生時代後期以降の集落跡が存在すると考える。

このため、この地域周辺において今後の開発事業等が計画される場合には、再度試掘調査を行う必要があると考える。

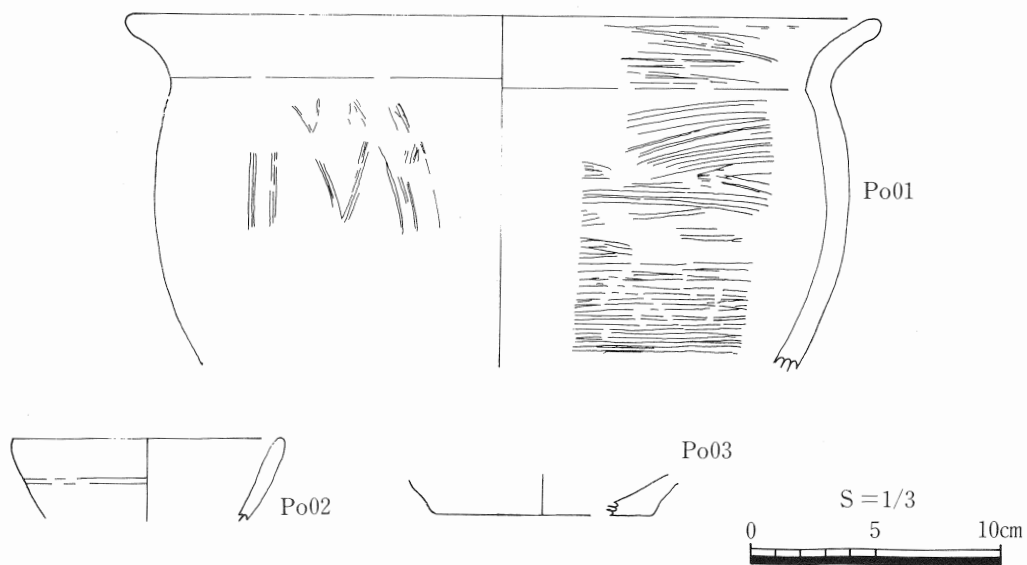
参考文献等

- (1) 『青谷町誌』 青谷町誌編さん委員会 1984年
- (2) 『カヤマ遺跡試掘調査報告書』 青谷町教育委員会 1982年
- (3) 『青谷町内遺跡発掘調査報告書Ⅳ』 青谷町教育委員会 1995年
- (4) 『大口古墳群発掘調査概報』 青谷町教育委員会 1980年
- (5) 『大口古墳群発掘調査報告書』 青谷町教育委員会 1985年
- (6) 『大口遺跡群発掘調査報告書』 青谷町教育委員会 1989年
- (7) 『青谷町内遺跡発掘調査報告書Ⅱ』 青谷町教育委員会 1993年
- (8) 『青谷町内遺跡発掘調査報告書Ⅲ』 青谷町教育委員会 1994年
- (9) 『大口第3遺跡発掘調査報告書』 青谷町教育委員会 1995年
- (10) 『旧石器・縄文時代の鳥取県』 鳥取県埋蔵文化財センター 1988年

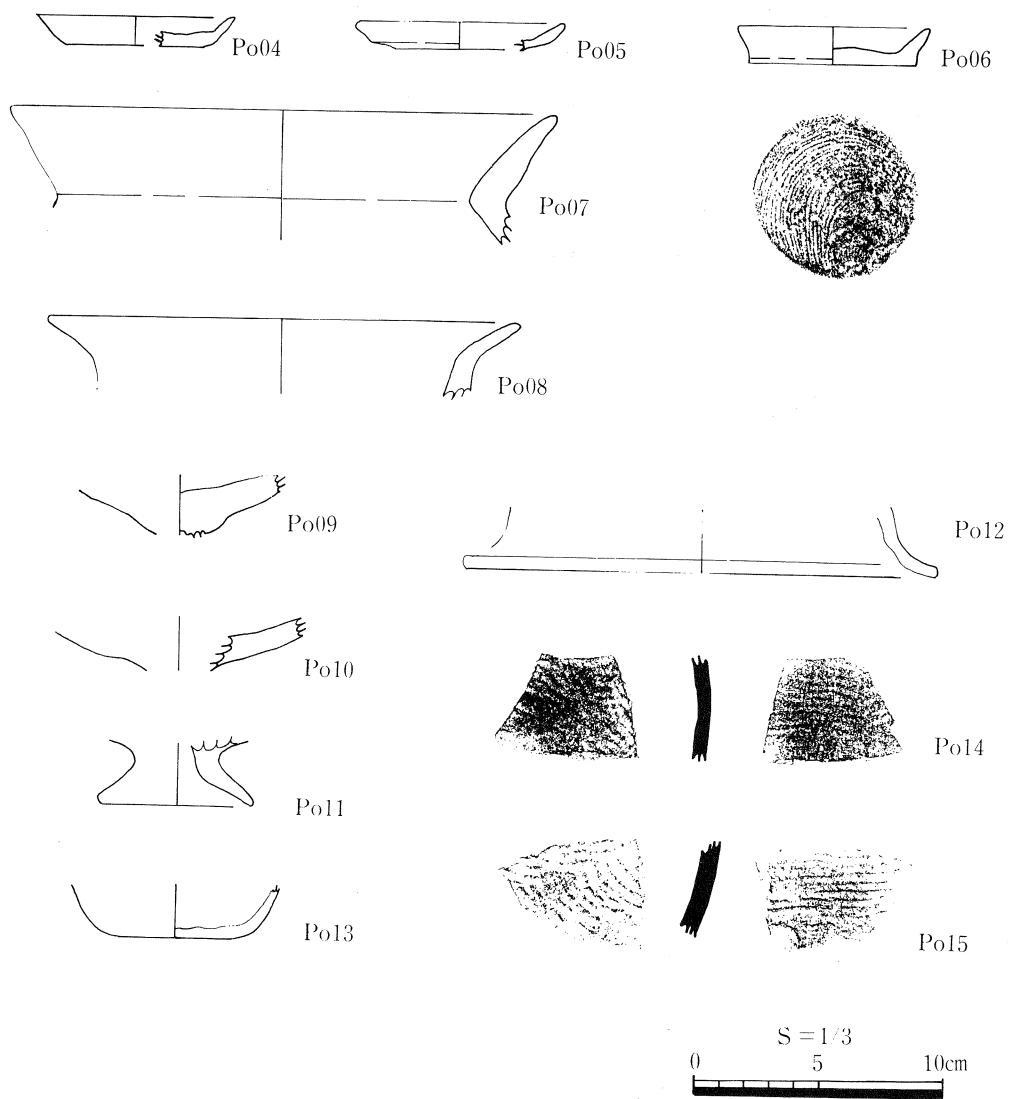
- (11) 『青谷町内遺跡発掘調査報告書Ⅰ』 青谷町教育委員会 1992年
- (12) 『弥生時代の鳥取県』 鳥取県埋蔵文化財センター 1987年
- (13) 『鳥取県の古墳』 鳥取県埋蔵文化財センター 1986年
- (14) 『蔵内古墳群発掘調査報告書』 青谷町教育委員会 1989年
- (15) 『長谷古墳群発掘調査報告書』 青谷町教育委員会 1989年
- (16) 『鳥取県史』1 原始・古代 鳥取県



挿図9 蔵内上長谷第1・第4所在遺跡出土遺物実測図



挿図10 カヤマ遺跡（藤田地区）出土遺物実測図1



挿図11 カヤマ遺跡（藤田地区）出土遺物実測図1

出土位置	土器番号	取上番号	器種	法量 (cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	①胎土、②焼成 ③色調	備考
T 3	Po01	01	縄文 口縁部	①26.6※ ② 3.0△	外傾する口縁部。口縁部外面に突帯を貼り付ける。口縁端部は丸くおさめる。	内面…ナデ。 外面…ナデ。突帯の上部に条痕。	①やや粗。(1mm前後の砂粒を含む)。②良好。 ③内面淡黄褐色 外面淡橙色。	
	Po02	10	縄文 甕 口縁部	①16.0※ ② 2.3△	やや外傾する口縁部。口縁端部は押さえた面を持つ。	内面…ヨコナデ。 外面…3条以上の沈線。	①密。 ②良好。 ③内外面黒褐色	
	Po03	03	縄文 粗製 深鉢	② 3.8△	胴部片。	内面…ナデ。 外面…擦痕。	①やや粗。 ②良好。 ③内面にぶい 橙色。外面に ぶい黄褐色。	外面スス 附着
	Po04	02	土師器 甕 肩部	② 5.0△ ③28.3※	ゆるやかにのびる肩部。	内面…ヨコナデ。 外面…6条のハケ目。以下ヨコナデ。	①密。 ②良好。 ③内外面にぶ い黄褐色。	

註…法量の○数字は次のとおりとする。①口径、②器高、③胴部最大径、④底部径、⑤脚径である。
また、復元した計測値に※印、残存値に△印を付した。

表 3 蔵内上長谷第1・3所在遺跡出土遺物観察表

出土位置	土器番号	取上番号	器種	法量 (cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	①胎土、②焼成 ③色調	備考
T 1	Po01	65	土師器 甕	①29.6※ ②14.0△ ③27.8※	口縁部は大きく外反し、口縁端部は丸くおさめる。頸部はゆるやかに「く」の字状に屈曲する。	内面…ヨコ方向のハケ目後ヨコナデ。 外面…口縁部ヨコナデ。 肩部以下タテ方向のハケ目後ヨコナデ。	①やや粗。(1~3mmの石英含む) ②良好 ③内外面にぶい赤褐色	外面スス 附着
	Po02	49	土師器 坏	①10.8※ ② 3.1△	口縁部はやや内湾気味に外傾する。口縁端部は丸くおさめる。	内外面…ていねいなヨコナデ。	①緻密。②良好 ③内外面橙色	
	Po03	1	土師器 坏	② 1.6△ ④ 8.7※	ほぼ平坦な底部から外傾する。	内面…回転ナデ。 外面…底部ヘラ切り後ナデ。体部は不明。	①やや粗。(1~3mmの石英含む) ②良好 ③内外面橙色	
	Po04	67	土師器 小皿	② 1.2 ④ 5.6△	ほぼ平坦な底部から小さな段を持ち外傾する。口縁端部は丸くおさめる。	内外面…回転ナデ。 底部外面回転糸切り。	①緻密。②良好 ③内外面橙色	
	Po05	68	土師器 小皿	① 8.4※ ② 1.1△ ④ 5.0※	底部から外傾し、小さく上方に屈曲し、さらに外傾して立ち上がる。口縁端部は丸くおさめる。	内外面…回転ナデ。 底部外面回転糸切り。	①密。②良好 ③内外面明赤褐色	
	Po06	70	土師器 小皿	① 7.7※ ② 1.5△ ⑥ 6.6	ほぼ平坦な底部から上方に屈曲し、さらに外傾して立ち上がる。口縁端部は丸くおさめる。	内外面…回転ナデ。 底部は内面指押さえによる回転ナデ、外面回転糸切り痕が残る。	①密。②良好 ③内外面にぶい橙色	

註…法量の○数字は次のとおりとする。①口径、②器高、③胴部最大径、④底部径、⑤脚径である。
また、復元した計測値に※印、残存値に△印を付した。

表 4 カヤマ遺跡 (藤田地区) 出土遺物観察表 1

出土位置	土器番号	取上番号	器種	法量 (cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	①胎土、②焼成 ③色調	備考
T 2	Po07	126	弥生 甕	①21.8※ ② 5.2△	口縁部はやや外反気味に外傾する。口縁端部は丸くおさめる。頸部は「く」の字状に屈曲する。	内面…口縁部ヨコナデ。頸部以下ヨコ方向のケズリ。 外面…ハクリにより不明	①密。(1~2mmの石英含む) ②良好 ③内外面明赤褐色	
	Po08	151	土師器 甕	①18.6※ ② 3.3△	外反して外傾する口縁部。口縁端部は丸くおさめる。	内面…不整方向のミガキが見られる。 外面…ヨコナデ。	①密。(1~2mmの砂粒含む) ②良好 ③内外面淡橙色	
	Po09	148	土師器 高坏	② 2.4△	坏部の破片。	内外面…ナデ。	①密。②良好 ③内外面灰白色	内外面赤色塗彩痕
	Po10	153	土師器 高坏	② 2.2△	坏部の破片。	内面…ヨコナデ。 外面…クシ状工具痕を残す。	①密。②良好 ③内外面橙色	
	Po11	147	土師器 低脚坏	② 2.6△ ⑤ 6.1※	大きく広がる脚部。	内外面…ヨコナデ。	①緻密。②良好 ③内外面にぶい橙色	
	Po12	166	土師器 器台	② 2.8△ ⑤18.7※	大きく開く脚台部。脚台端部は押さえた面を持つ。	内外面…ミガキ痕を残す	①緻密。②良好 ③内外面淡橙色	
	Po13	149	土師器 坏	② 2.1△ ④ 6.4※	ほぼ平坦な底部から内湾気味に外傾して立ち上がる。	内外面…回転ナデ。底部は内面指押さえによる回転ナデ、外面回転糸切り痕を残す。	①緻密。②良好 ③内外面白灰色	内外面赤色塗彩痕
	Po14	68	須恵器 甕	② 4.0△	胴部の破片。	内面…同心円文叩き。 外面…平行叩き文。	①緻密。②良好 ③内外面灰色	
	Po15	69	須恵器 甕	② 4.0△	胴部の破片。	外面…平行叩き文。 内面…同心円文叩き。	①緻密。②良好 ③内外面灰色	

註…法量の○数字は次のとおりとする。①口径、②器高、③胴部最大径、④底部径、⑤脚径である。
また、復元した計測値に※印、残存値に△印を付した。

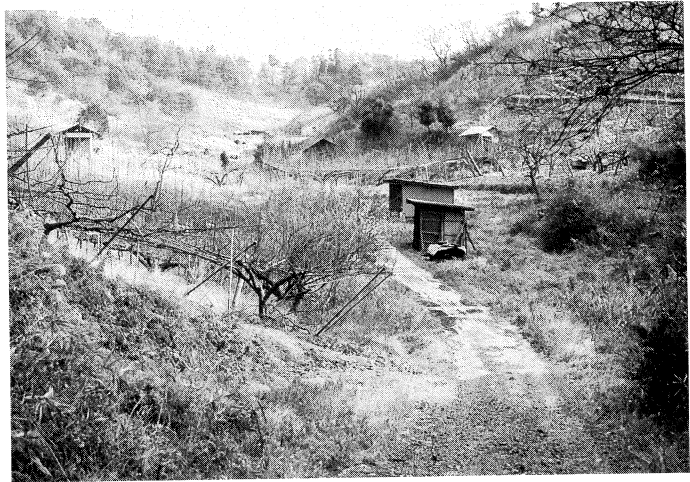
表5 カヤマ遺跡(藤田地区)出土遺物観察表2

報告書抄録

ふりがな	あおやちょうないいせきはつくつちょうさほうこくしょ							
書名	青谷町内遺跡発掘調査報告書V							
副書名	蔵内上長谷第1・第4所在遺跡、カヤマ遺跡（藤田地区）							
巻次								
シリーズ名	青谷町埋蔵文化財報告書							
シリーズ番号	第12集							
編著者名	森 佳樹・坂根善男							
編集機関	青谷町教育委員会							
所在地	〒689-05 鳥取県気高郡青谷町青谷667番地 TEL 0857-85-0011							
発行年月日	西暦1996年3月19日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
くろうちかみながたに 蔵内上長谷 第1・第4 所在	鳥取県気高郡 青谷町蔵内 字上長谷	31343		35度 28分 56秒	134度 01分 50秒	19951130 ~19951214	29.80	五本松地区 ふるさと農道 新設工事
カヤマ (藤田地区)	鳥取県気高郡 青谷町早牛 字藤田	31343		35度 29分 11秒	134度 00分 50秒	19960226 ~19960229	21.80	緊急地方道路 (蔵内本線) 整備事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
蔵内上長谷 第1・第4 所在	散布地	縄文 古墳	検出できず	縄文土器、土師器 須恵器		試掘調査として実施。		
カヤマ (藤田地区)	散布地	弥生 古墳 奈良~	検出できず	弥生土器、土師器 須恵器		試掘調査として実施。		



蔵内上長谷第1・第4所在遺跡
全景



第1トレンチ完掘状況



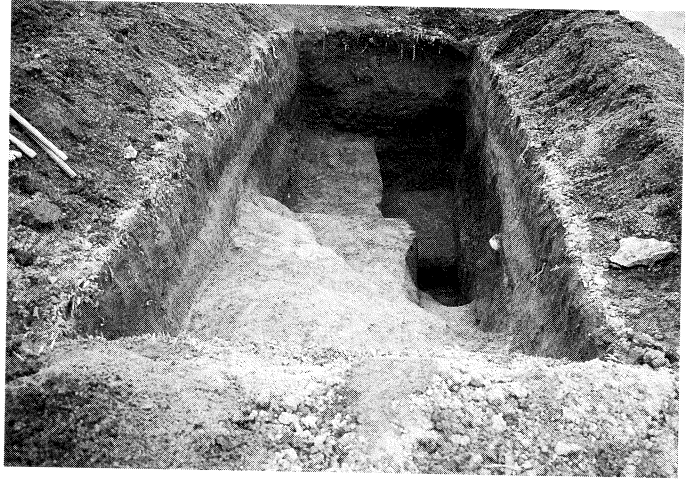
第3トレンチ完掘状況



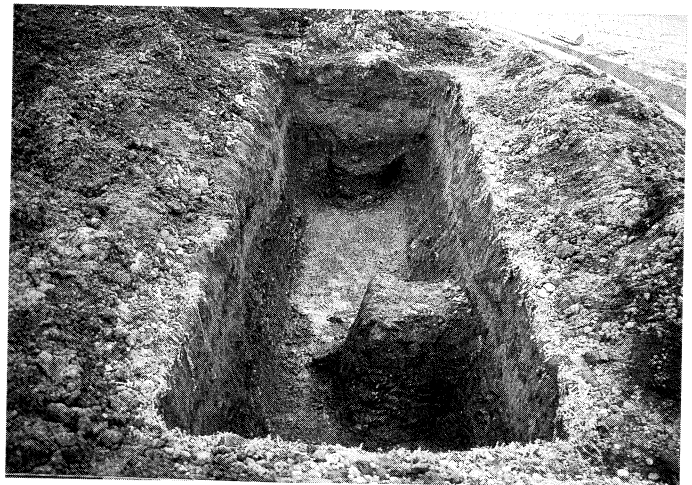
カヤマ遺跡（藤田地区）全景



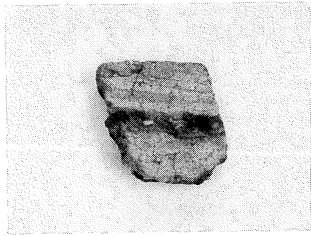
第1トレンチ完掘状況



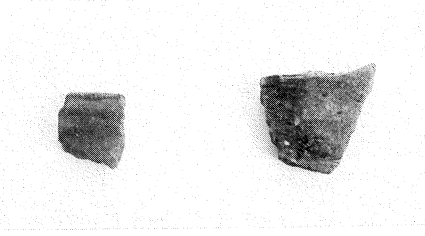
第2トレンチ完掘状況



図版 3

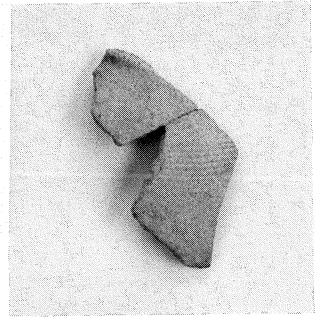


Po01



Po02

Po03



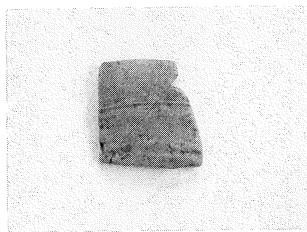
Po04

蔵内上長谷第1・第4所在遺跡出土遺物

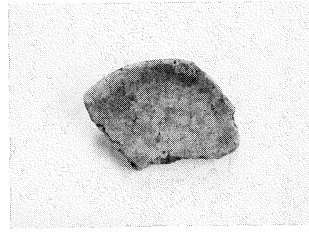
図版 4



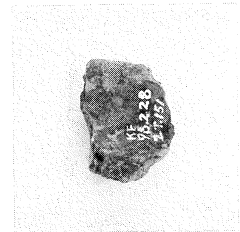
Po01



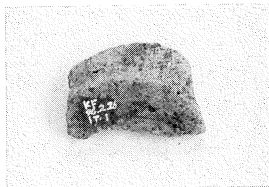
Po02



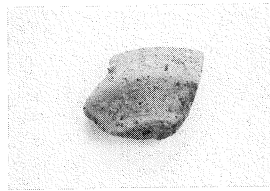
Po04



Po08



Po03

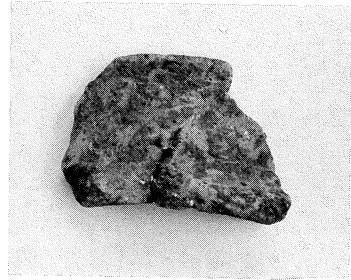


Po05

カヤマ遺跡（藤田地区）出土遺物1



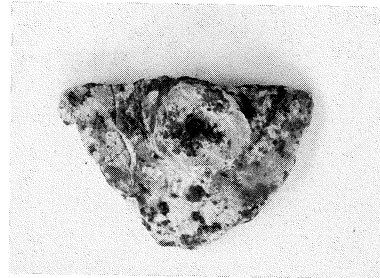
Po06



Po07



Po06
(底部)



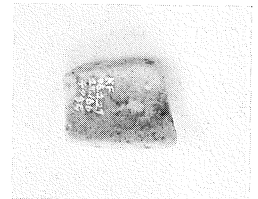
Po09



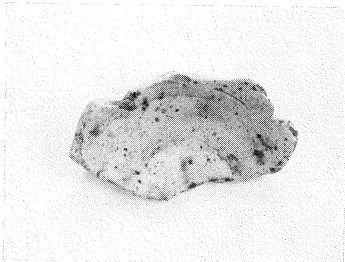
Po10



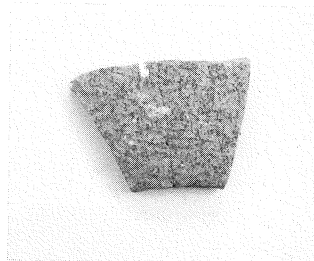
Po11



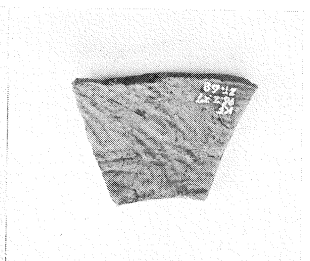
Po12



Po13



Po14



Po15

青谷町埋蔵文化財調査報告書13

青谷町内遺跡発掘調査報告書Ⅴ

（ 蔵内上長谷第1・第4所在遺跡
カヤマ遺跡（藤田地区）試掘調査 ）

発行 1996. 3

発行者 青谷町教育委員会

〒689-05 鳥取県気高郡青谷町大字青谷667番地

TEL (0857) 85-0011

印刷 勝美印刷株式会社

鳥取県東伯郡羽合町長瀬

TEL (0858) 35-4411

